

江崎 貴大 議員 民進党

育ちにくさのある子ども・保護者への総合的な支援は



▶今年4月2日、自閉症啓発デーでの名古屋テレビ塔

早期発見と早期対応  
本市の取り組みは

問 (1) 発達におくれがある、発達にてこぼこがある子どもに対して、どのように発見、アプローチ、フォローしているのか。

(2) のびのび園へはどのような職員を配置しているのか。

乳幼児健康診査で早期発見  
健診事後教室で早期対応

答 民生部長

(1) 1歳6カ月児健康診査で運動機能・視聴覚・精神

発達の遅滞などが気になる

幼児を早期に発見し、保護者と相談の上、健診事後教室「わいわい教室」や2歳児子育て教室「ひまわり教室」などにつなげている。

療育が必要と思われる場合は、のびのび園を紹介。

(2) 正職員2名の内、園長は過去にのびのび園の経験者、副園長は保育士の中でも特に子どもの発達を理解した療育施設に相応しい職員を配置。他に専門士として言語聴覚士と臨床心理士が月2回定期的に訪問。

切れ目のない支援  
本市の取り組みは

問

(1) 発達障がい児の支援は、さまざまなライフステージと関わり、複数の担当にまたがった支援が必要だが、

連携はどのようにとられているのか。

(2) 保健センターから保育所、また就学前から小学校へと、支援が必要な子の情報はどのように共有しているのか。

幼児はサポートブック活用  
教育委員会にも今後拡大

答 民生部長

(1) 今年度より弥富市特別支援教育連絡会を立ち上げ、障がいやその傾向のある子ども及びその保護者の多様なニーズに応え、乳幼児期から保育所・幼稚園への入園、小学校、中学校の入学、

中学校卒業後の進路選択などの各方面において、一貫した支援並びに適正就学などのための連携・協力体制を構築することを目的として年3回の開催を予定している。

(2) 保健センターと保育所は、担当保健師から当該の保育所へ連絡を密にして情報を共有している。保育所と小学校は、幼保小連絡協

議会及び特別支援教育連絡会により情報を共有している。情報を共有する支援ツールとして、福祉課が作成している幼児向けのサポートブックを活用している。

この情報を小学校に引き継ぐシステムが現在ないが、今、教育委員会で弥富市特別支援教育連絡会にて、サポートブックの引き継ぎがよりうまくいくよう取り組んでいきたいと考えている。

保護者に対する支援  
本市の取り組みは

問

(1) 育ちにくさのある子どもへの正しい理解や社会への啓発活動として本市はどのようなことを行ってきたか、今後どのようにしていく予定か。

(2) ペアレントプログラム(ペアプロ)の導入を検討されているかどうか。

地域社会で子どもや保護者の支援に携わる保育士や保健師、福祉事業所の職員などが保護者支援の一つとし

て取り入れやすいプログラム。発達障がいや、その傾向のある子どもを持つ保護者だけでなく、育児に不安のある保護者や仲間関係が築けずに困っている保護者を支援するプログラムでもある。



今後も啓発活動を推進  
ペアプロの実践を検討

答 福祉課長

(1) 国連総会で毎年4月2日は世界自閉症啓発デーとすることが決議され広報で記事にしている。また相談支援事業所や発達支援事業所を取材し、広報やホームページに記事を掲載している。地域全体で支援していくことが重要なので、今後も啓発活動を推進していく。(2) 全国では28年3月現在で23の自治体で実施。大府市などを参考にしながら、実践できるか研究したい。